



CLASTOR2100

サーバーマニユアル

エムアイシー・アソシエーツ株式会社

本インストールガイドについて

本書に記載された内容は予告無く変更される場合があります。エムアイシー・アソシエーツ株式会社は、本書に記載された製品の適合性、暗黙の保証、運用における損害及び本書に使用に関連した損害について責任を負いかねます。

また、本製品は、日本国外、軍事目的、原子力設備で使用されないことを前提としております。

エムアイシー・アソシエーツ株式会社は、本書に記載された製品への記録されたデータについて、その消失・誤記録における責任を負いかねます。

エムアイシー・アソシエーツ株式会社は、本書に記載してあるすべて、または、一部の記載内容に関し、許可なく転載、または、引用することを禁じます。

このマニュアルは、CLASTOR2100のインストール方法、使用方法について解説しています。すべての画像、およびこのガイドに示されている内容は、発行時点で入手可能な最新のリビジョンに基づいています。最新情報については、弊社までお問合せください。

版管理

版番号1.0（新規）

発行日 2011/10/28

ご利用者の前提条件

本書はコンピューター装置の運用・管理技術を有する、保守およびメンテナンス業務実務者を対象としています。

本書作成、編集、管理



エムアイシー・アソシエーツ株式会社
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-12-12
櫻正宗東日本橋ビル9F
Tel. 03-5614-3757 Fax. 03-5614-3752

目次

1章 取扱注意事項	1
1-1 梱包品内容の確認	1
1-2 設置環境の確認	1
ホコリ・温度・湿度：	1
振動：	1
外来ノイズ：	2
1-3 重量物取り扱い	2
1-4 衝撃	2
1-5 静電気	2
2章 ラックへの設置	3
2-1 ラックマウントの手順	3
ラックレールの種類	3
インナーレールのエクステンション部品	4
インナーレールの取り付け	4
ラックへの外側レールの取り付け	5
CLASTOR2100をラックに取り付ける	7
Telcoラックへの筐体の取り付け	8
3章 本体各部の名称	9
3-1 前面部	9
3-2 コントロールパネル詳細	9
3-3 コントロールパネルボタン	10
3-4 コントロールパネル LED	11
3-5 背面部 I/Oポート	13

4章 筐体のセットアップとメンテナンス	14
4-1 筐体カバーとフロントベゼルの取り外し	14
筐体カバーの取り外し	14
フロントベゼル	15
フロントベゼルの取り外し	15
4-2 ハードディスクモジュールの交換	16
ハードディスクモジュールの取り外し	16
5章 RAIDの構成方法	17
5-1 WebBIOS CU メイン画面オプション	18
5-2 ストレージの構成	20
Configuration Wizardからの構成選択	20
Automatic Configurationの使用	21
Manual Configurationの使用	22

1章 取扱注意事項

本書では製品の梱包を開けてから設置までの手順を説明します。

本章では基本的な取扱い事項が記載されていますので、運用を開始される前に必ず一読をお願いいたします。

1-1 梱包品内容の確認

梱包品が揃っている事をご確認ください。

万一不足品があった場合は、速やかに弊社技術部までご連絡ください。

1-2 設置環境の確認

設置する環境について以下の点にご注意ください。

ホコリ・温度・湿度：

換気扇の近くなどホコリの多い場所には設置しないでください。またラックに実装されている場合には動作環境温度は室温ではなく、ラック内温度、湿度となる点に注意してください。

また、一般にエアコンの温度設定はリモートコントローラ部にあるセンサーで測った温度により動作を制御しているため、現物の設置位置によってはエアコンの設定温度と著しく異なる場合があります。周囲に発熱を伴う機材が無い、日光が当たらない、通電状態に関わらず通常勤務時間を過ぎるとエアコンが停止しないか等も配慮が必要となります。

エアフローが確保されているか、排気が遮られていないか注意してください。

またエアコン噴出し口の近辺に設置されている場合、結露による水滴の滴下、飛散にもご注意ください。

振動：

HDD は高速の回転体と非常に近接したヘッドの動作を伴うため、稼働中の振動はエラー発生のみならず、物理的な故障の原因となります。またラックが十分な強度を持っているか、固定は正しく行われているか、重量に見合った固定方法が取られているかについて注意が必要です。メンテナンス時にはこれらが緩みを生じていないか、取り外されたままになっていないかについても確認を行う必要があります。

外来ノイズ：

ACラインが大型エアコン（コンプレッサー）、モーター等と共用されている場合、ACラインの電圧変動および、ACラインを経由する外来ノイズによる動作不良を起す場合があります。FGが取られている場合は、十分に太く、最短距離で設置し、ノイズ発生源とFGを共有していないことを確認してください。

1-3 重量物取り扱い

取り付けおよび取り外しを伴う作業時には周囲の安全確保と共に複数作業員による作業をお願いします。不安定または無理な姿勢での重量物取り扱い作業を行わないでください。

1-4 衝撃

当該システムを構成する機材の運搬、搬送時には精密機器としての取り扱いをお願いします。その際に振動および、衝撃を与えないよう注意してください。

1-5 静電気

当該システムの組み立て時、保守時、障害対処時には静電気による破損を発生させない様に注意願います。特に交換、修理の為に各モジュールを部品状態で取り扱う場合には、以下の各事項を確認してください。

- ・ 静電気を発生しやすい、蓄電しやすい衣服着用状態での作業は行わない。
- ・ 取り扱い前に筐体金属部、ラック金属部等を触り除電する。
- ・ 部品実装面、接続コネクタ（特にピン）、カードエッジ部分等には触れない。
- ・ 部品状態で置く、搬送する、移動する場合には静電対策袋を使用する。

2章 ラックへの設置

2-1 ラックマウントの手順

以下の頁では、ラックユニットにCLASTOR2100を設置する方法を解説します。市場には多くのラックユニットが販売されていますので、組み立て手順が多少異なることがあります。事前にラックユニットに付属するインストールガイド等で必要な手順を参照してください。

注記：このレールは、26インチ x 33.5インチのサイズです。

ラックレールの種類

CASTOR2100には、ラック取り付けキットとして、2本のラックレールアセンブリが含まれています。筐体に直接固定する内側のレールと、ラック自体に直接固定する外側のレールです。各アセンブリは、2つのセクションで構成されています。

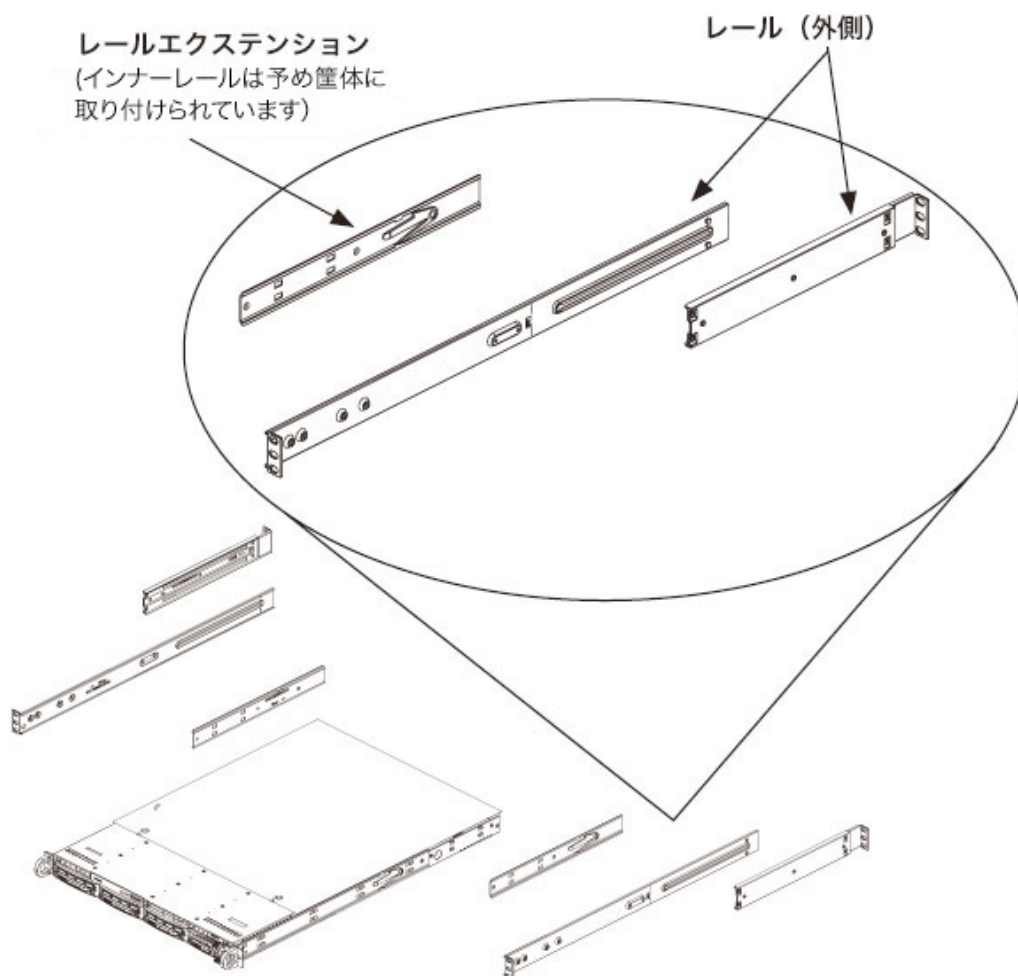


図 2-1 ラックレールの種類 (図は右側のラックレール)

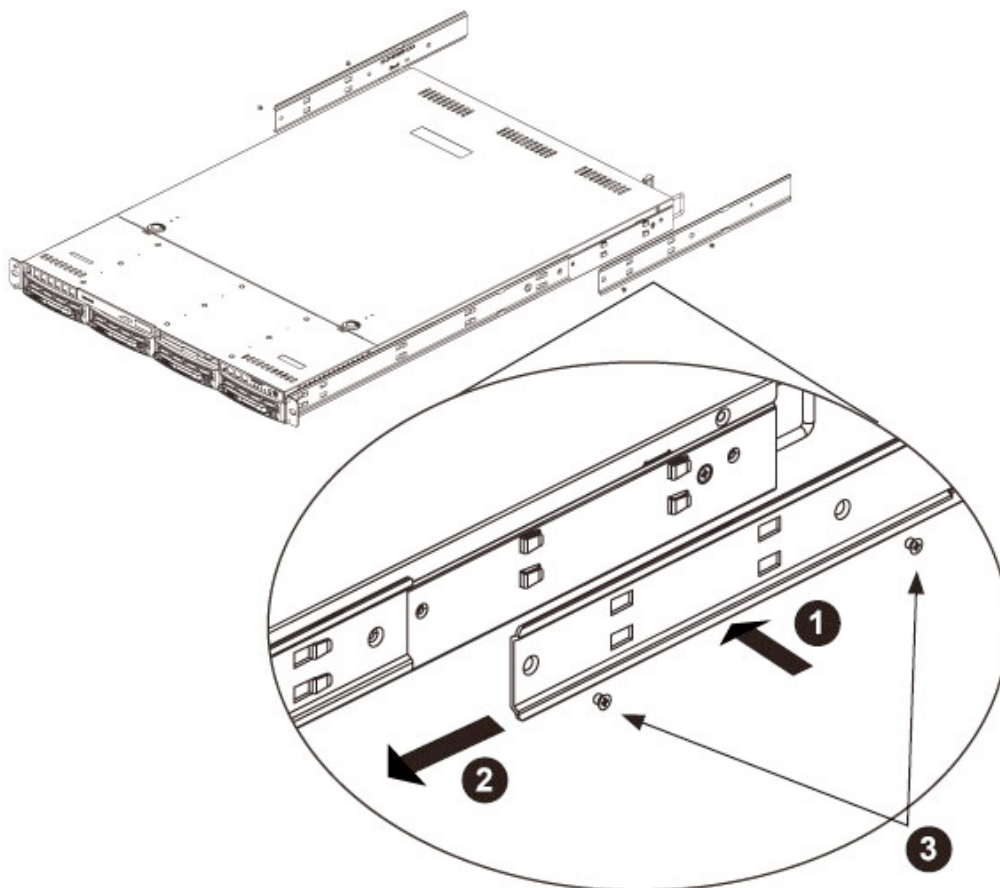


図2-2 ラックレールの取り付け（図は右側のラックレール）

インナーレールのエクステンション部品

CLASTOR2100には、インナーレールとそのエクステンションが含まれています。レールは事前に取り付けられていますが、サーバラックのインストールに使用しない場合でも、通常使用の妨げになることはありません。ラック内の筐体を安定させるために、インナーレールエクステンション部品を取り付けます。

インナーレールの取り付け

1. インナーレールエクステンション部品の穴と、筐体のフックを合わせます。エクステンション部品が、事前に接続されているインナーレールと同じ向きになるよう設置してください。
2. 筐体の前面に向かってエクステンション部品をスライドさせます。
3. 図2-2のように2本のネジで筐体に固定します。
4. 残りのインナーレールの取り付けも同様に1-3を繰り返してください。

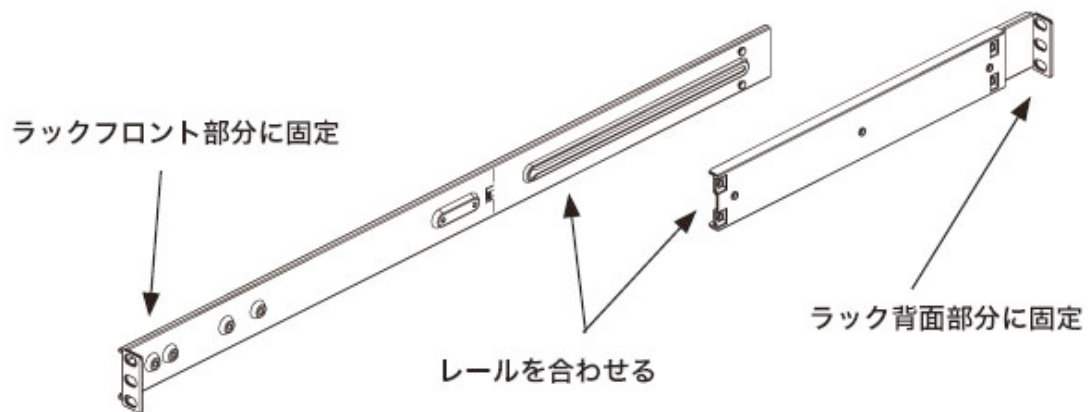


図2-3 外側レールの組立

ラックへの外側レールの取り付け

1. 長い方の外側レールを短い外側のレールに取り付けます。ピンをスライダーに合わせます。外側のレールの両端は、ラックに固定するため、同じ面を向けてください。
2. レールがラック内にぴったりと収まるよう、外側レールの両方端を適切な長さに調整します。
3. 外側レールの長い側をラックに2本のM5ネジで、背面部側に短いレールを2本のM5ネジでそれぞれ留めます。
4. 残りの外側レールの取り付けも同様に1-4を繰り返してください。

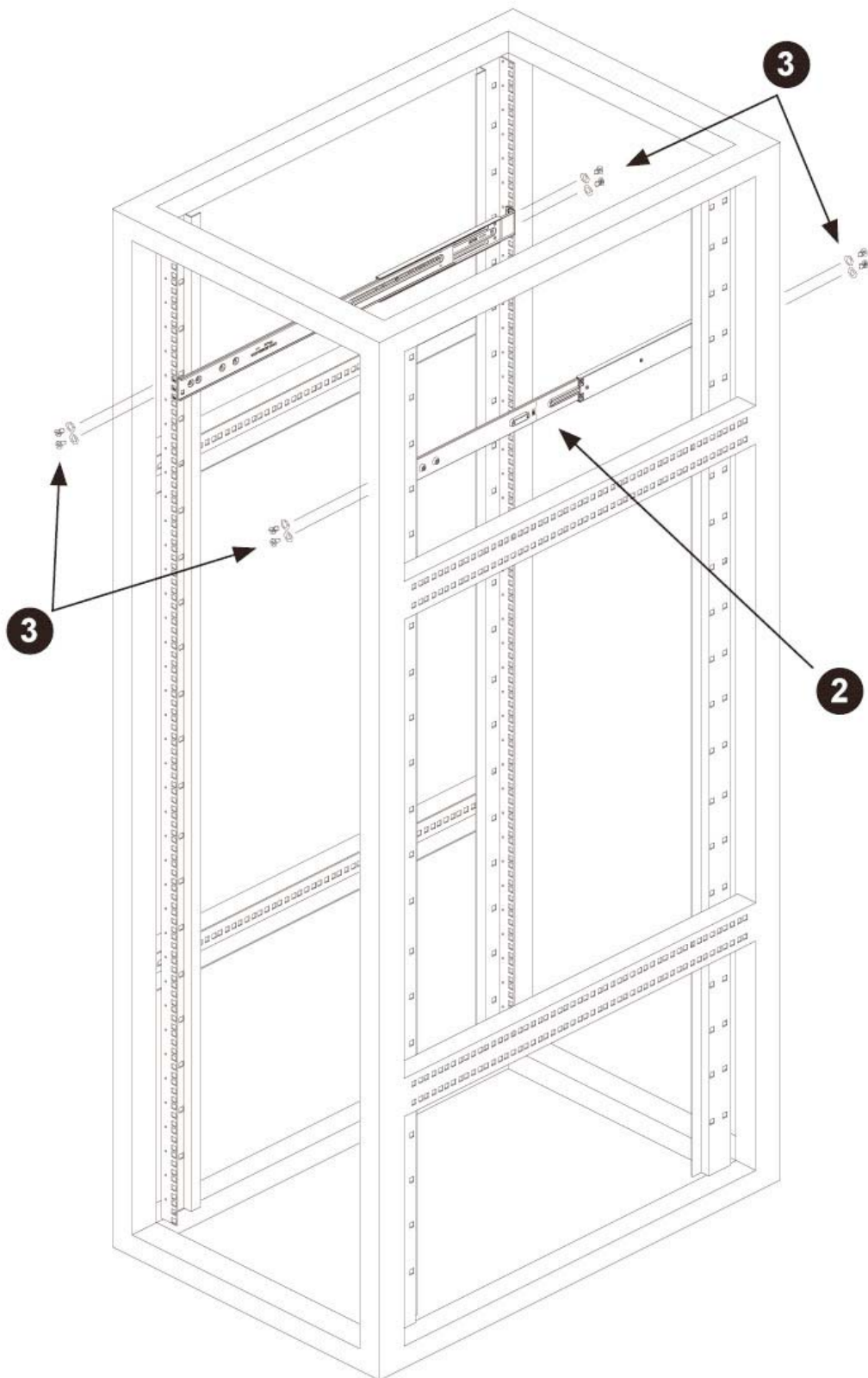


図2-4 外側レールのラックへの取り付け

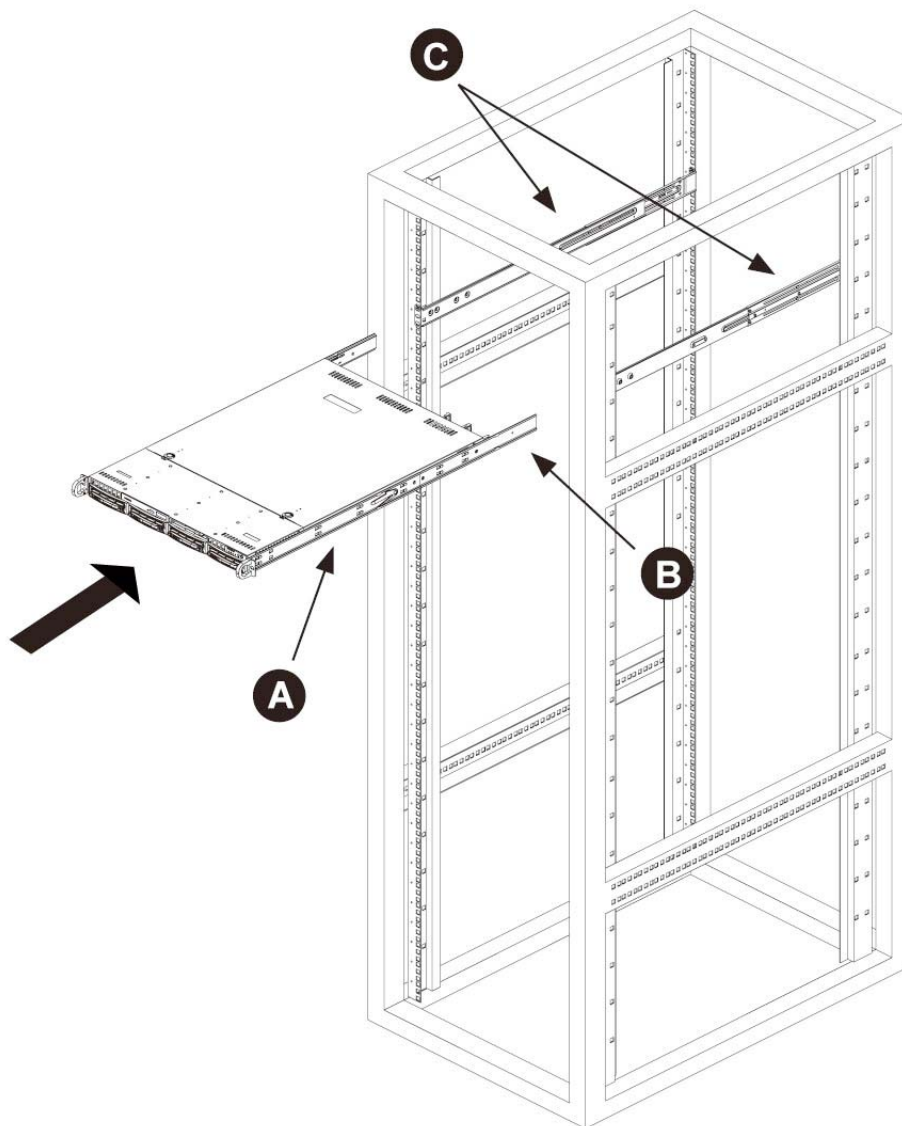


図2-5 ラックレールのインストール

CLASTOR2100をラックに取り付ける

1. CLASTOR2100にインナーレール(A)、レールのエクステンション (B)、外側レール (C) がラックに正しく取り付けられていることを確認してください。
2. 筐体レール (A、B) とラックレール(C)を合わせます。
3. 両側の筐体レールをラックレールに挿入します。(ロックタブを押す必要がある場合もあります) サーバがラックに完全に設置されると、「カチッ」と音がし、ロックされます。
4. CLASTOR2100をラックの前面部に固定する蝶ネジがある場合はそれを締めます。

Telcoラックへの筐体の取り付け

TelcoタイプのラックにCLASTOR2100を取り付けるには、L字型のブラケット4本が必要です。始めに、ラックに合わせてレールの奥行きを調節し、正確に収まるように設定します。筐体の重量を考慮に入れ、前後にバランスの取れた配置をします。ベゼルがサーバに取り付けられている場合は、取り外しておきます。

フロント部左右にある、ブラケットを取り付けます。背面のブラケットは、Telcoラックの幅に合わせて十分なスペースを確保し取り付けます。筐体をラックにスライドし、ブラケットを締めます。

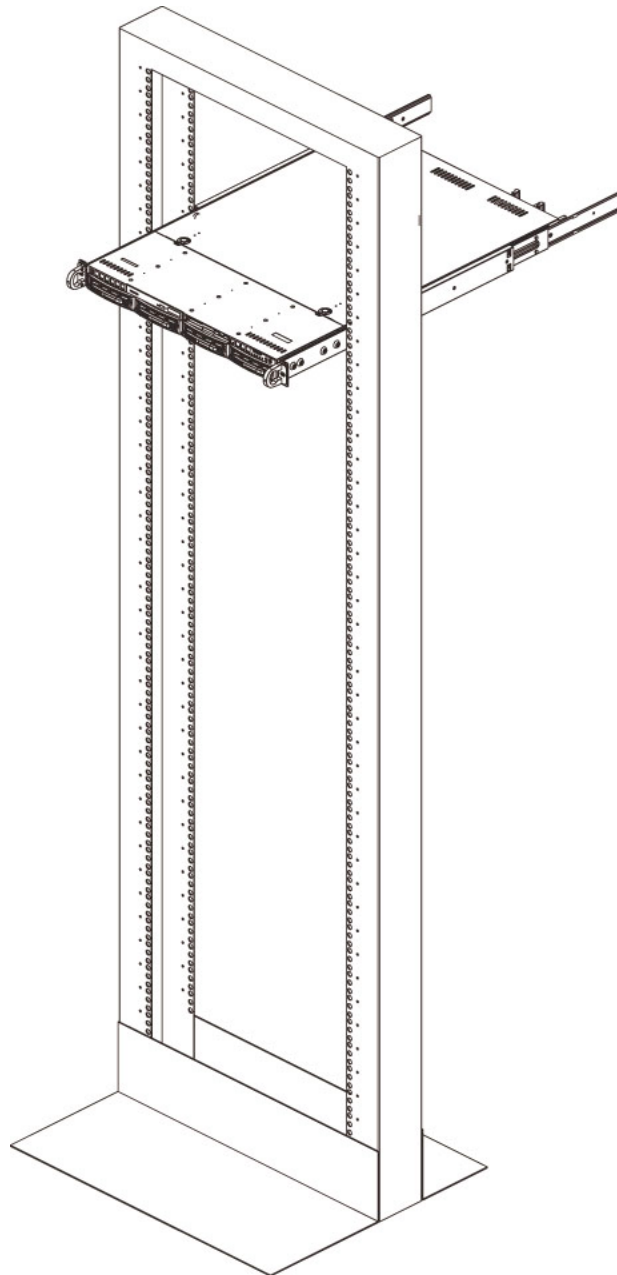


図2-6 Telcoラックへのサーバーの取り付け

3章 本体各部の名称

3-1 前面部



図3-1 CLASTOR2100 前面部

3-2 コントロールパネル詳細

コントロールパネル、ドライブキャリアには、システムとコンポーネントのステータスを示すLEDがあります。この章では、LEDインジケータの解説と、必要な対応について解説します。

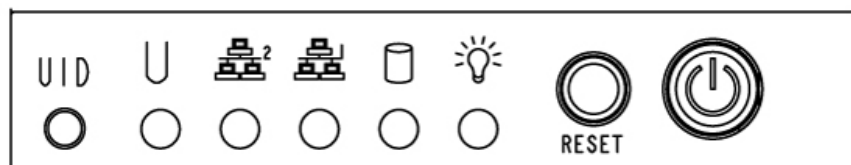
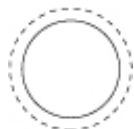


図3-2 コントロールパネルボタン、LED

3-3 コントロールパネルボタン

CLASTOR2100筐体、フロントパネルには、リセットボタン、主電源ボタン、UIDボタンがあります。



リセットボタン: システムをリブートします。



主電源ボタン: 主電源ボタンはサーバシステムの電源オン/オフに使用されます。このボタンでシステムの電源をオフにすると、主電源が停止されますが、システムに付属している補助電源が作動し、電力を維持できます。修理、メンテナンスの際には、必ず電源プラグを抜いてください。

UID

UID: UIDと互換性のあるマザーボードの使用で、LEDが青色に発光します。U-LEDが青色点灯時には、大規模ラックへサーバを容易に配置することができます。

3-4 コントロールパネル LED

筐体前面部にあるコントロールパネルには、最大5個のLEDが付いています。このLEDは、システムのさまざまな情報を示しています。以下の頁では、各LEDが示す意味と、必要な対応を解説しています。



ユニバーサルインフォメーションLED: このLEDは、ファンの故障、電源故障、過熱、または大規模なラックのインストールでユニットを識別するために使用されます。この機能を有効にするためには、ユニバーサルインフォメーションLEDに対応したマザーボードが必要です。

赤色の点滅はファン障害、ゆっくりとした赤色点滅は電源障害を表します。このLEDをUID（ユニット識別子）に使用する場合は青色に点灯します。赤色LEDが常時点灯している場合は、過熱状態を示しています。環境温度が高すぎる、またはケーブルなどの障害物で、正常なエアフローが妨げられている可能性があります。LED説明については、下記の表を参照してください。

ユニバーサルインフォメーションLED	
ステータス	状態
赤色点滅（1秒に1回の点滅）	ファンの障害
赤色点灯	CPU過熱
赤色点灯（4秒に1回の点滅）	電源障害
青色点灯	UIDボタンが押された
青色点滅	IPMI-UID アクティブ

表3-1 ユニバーサルインフォメーションLEDステータス

注記：UID LEDはアクティベートした時と同じ方法で非アクティブにしてください。（PMIを介してUID LEDを起動した場合は、UIDボタンを使用せず、PMIを使用しLEDボタンをオフにしてください。）



NIC2: 点滅時はGLAN2のネットワークアクティビティを示しています。



NIC1: 点滅時はGLAN1のネットワークアクティビティを示しています。



HDD: IDEチャンネルのアクティビティを示しています。点滅時は SAS/SATA ドライブ、SCSIドライブ、DVD ROMのアクティビティを示しています。



電源: システムの電源供給ユニットに電源が入っていることを示しています。通常このLEDは、システムが稼働中に点灯します。

3-5 背面部 I/Oポート

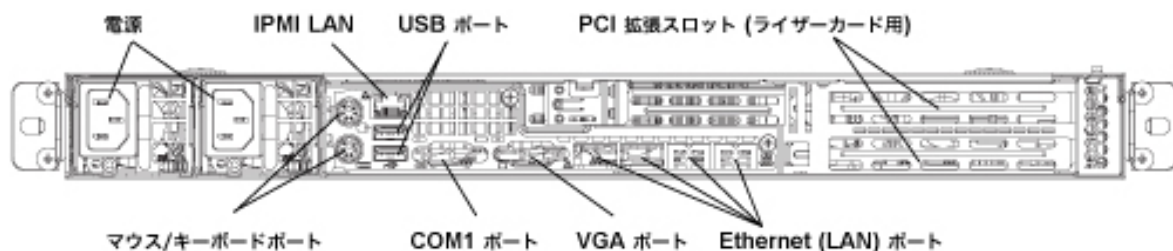


図3-2 筐体背面図

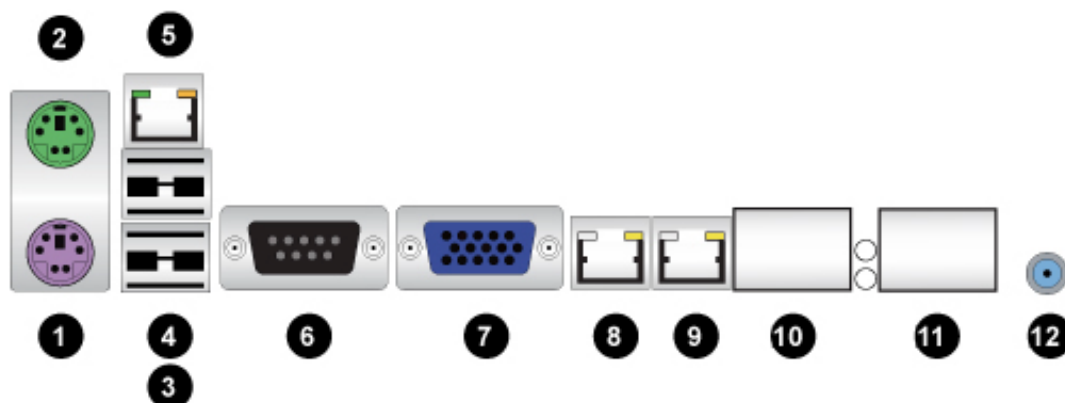


図3-3 背面部I/Oポート

I/Oポート	
1. キーボード	7. VGAポート
2. PS/Sマウス	8. LAN1 (1 Gb)
3. USB0	9. LAN2 (1 Gb)
4. USB1	10. T-LAN1 (10 Gb)
5. IPMI LAN専用	11. T-LAN2 (10 Gb)
6. COM1	12. UID ボタン

4章 筐体のセットアップとメンテナンス

4-1 筐体カバーとフロントベゼルの取り外し

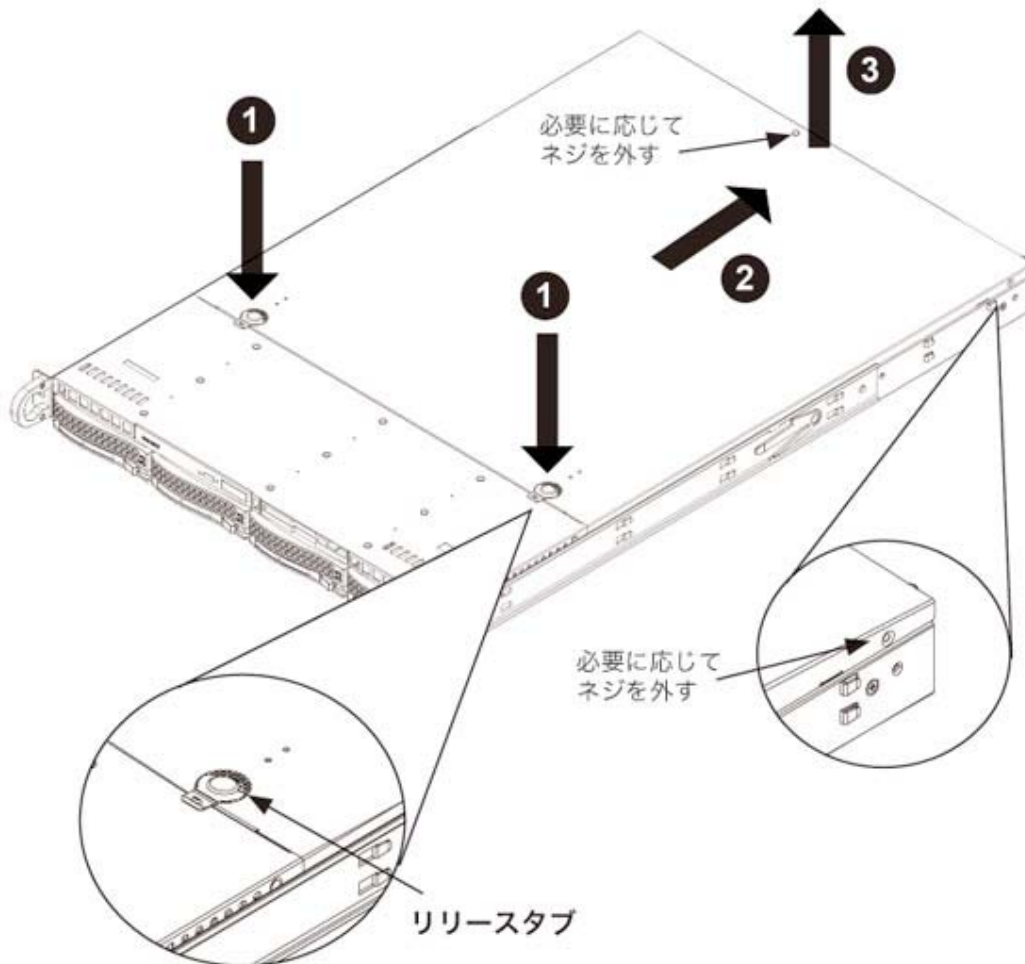


図4-1 筐体カバーの取り外し

筐体カバーの取り外し

5. 両方のリリースタブを同時に押します。
6. 背面方向へカバーをスライドさせます。
7. カバーを筐体から取り外します。



カバーを外したまま長時間作動させないでください。カバーは適切なエアフローを確保し、過熱を防ぐために必ず必要です。

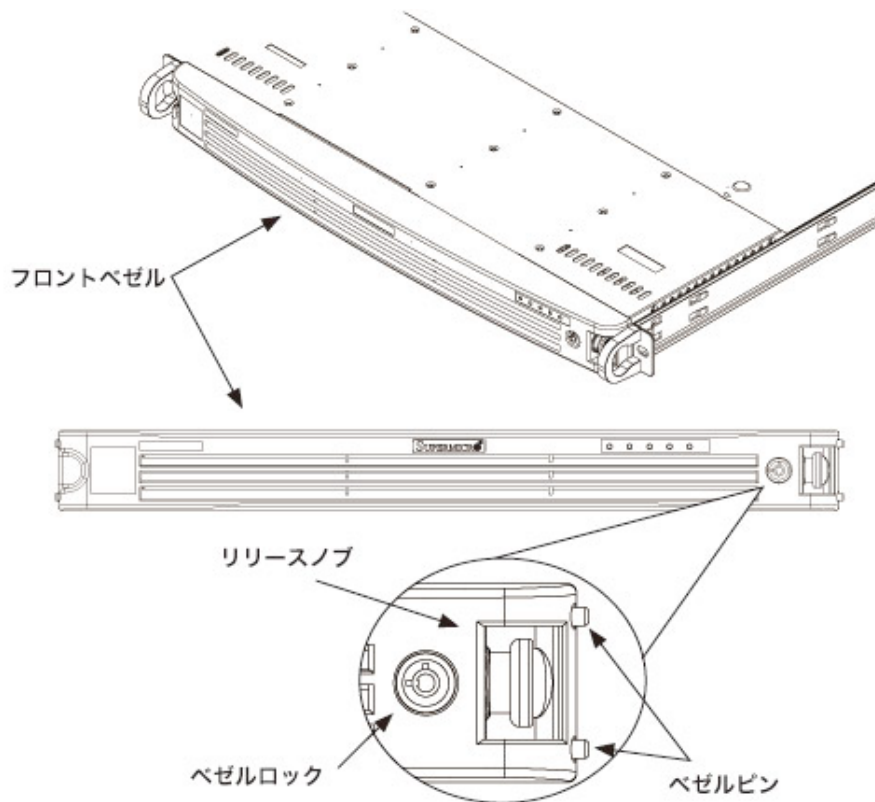


図4-2 フロントベゼルの取り外し

フロントベゼル

ドライブベイにアクセスするにあたり、筐体にフロントベゼルが取り付けられている場合は取り外す必要があります。フロントベゼル内にあるフィルターはクリーニング、メンテナンスのために取り外すことができます。フィルターのコンディションは、システム全体のエアフローに影響します。

フロントベゼルの取り外し

1. ベゼルロックを解除します。
2. ベゼルのピンを解放するためにリリースノブを押します。
3. 両手でベゼルを取り外します。

4-2 ハードディスクモジュールの交換

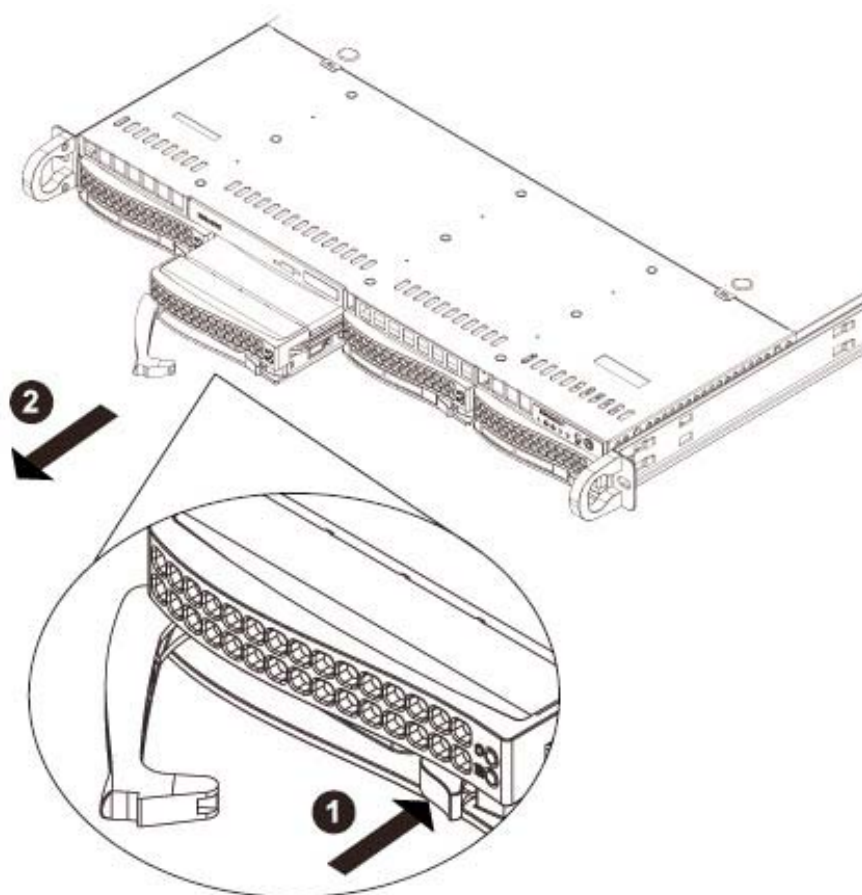


図4-3 ハードディスクモジュールの取り外し

ハードディスクモジュールの取り外し

1. ドライブキャリアのリリースボタンを押し、ハンドルを解放します。
2. ハンドルを引いて、モジュールを引き出します。



稼働中の機材に対し、適切な手順を踏まずにハードディスクモジュールの取り外しを行うと、アレイ構成や、ファイルシステムの破損をまねく場合があります。

5章 RAIDの構成方法

通常はご指定頂いたディスク構成で出荷され、特にお客様が操作する作業ではありません。
しかし、状況によりやむを得ずディスク構成を変更、再構築を行なう必要がある場合に参考として記載させていただきます。

以下の手順でWebBIOS CUの準備をし、メイン画面へと進みます。

1. 全てのSASドライブをインストール後、システムを起動します。
2. POSTの間に<Ctrl+H>を入力すると、以下の画面が表示されます。



リブート CLI には <Ctrl+Y>を入力してください: このオプションはアドバンスデバックにのみ使用可能です。

```
LSI MegaRAID SAS-MFI BIOS
Version 3.19.00 (Build October 19, 2010)
Copyright(C) 2010 LSI Corporation
HA -0 (Bus 12 Dev 0) LSI MegaRAID SAS PCI Express ROMB
FW package: 12.12.0-0033

Battery Status: Not present

  PCI SLOT  ID  LUN  VENDOR  PRODUCT  REVISION  CAPACITY
-----
  7          2  0    ATA    ST3160812AS  E         152627MB
  7          3  0    ATA    ST3160812AS  E         152626MB
  7          4  0    ATA    ST3160812AS  E         152626MB
  7          5  0    ATA    ST3160812AS  E         152627MB

0 Virtual Drive(s) found on the host adapter.

0 Virtual Drive(s) handled by BIOS
Press <Ctrl><B> for WebBIOS or press <Ctrl><Y> for Preboot CLI _
```

図5-1 Adapter Selection画面

3. Adapter Selection画面が表示されます。マルチSASアダプターを使用している場合は、アダプターを選択します。
4. “Start” を押下し、WebBIOS CUメイン画面に移動します。

5-1 WebBIOS CU メイン画面オプション

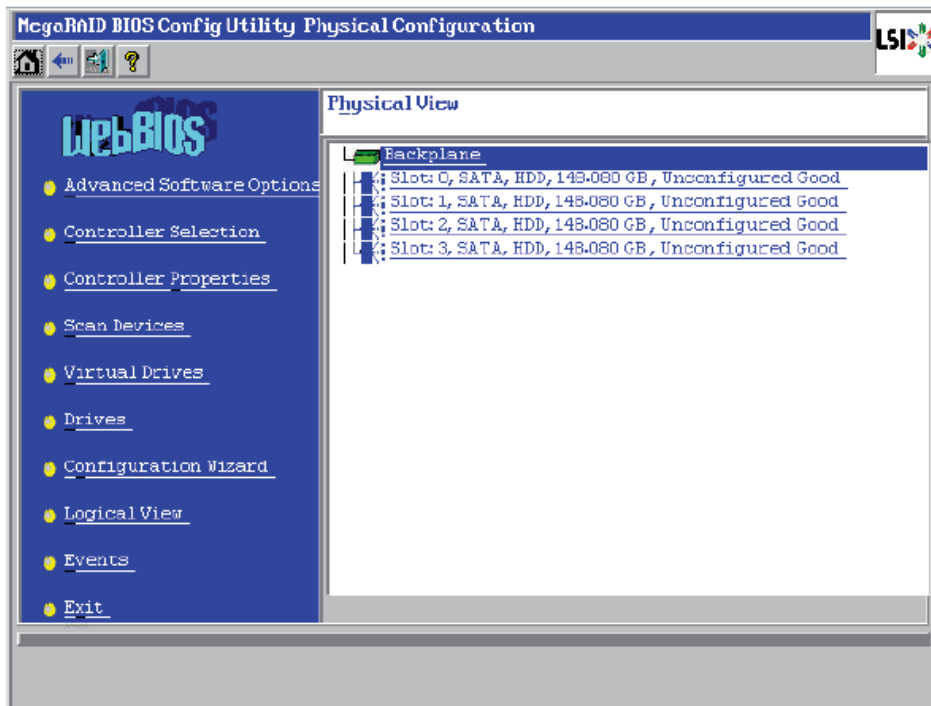






図5-2 Physical View画面

Physical View画面では、コントローラーに接続されているドライブを表示します。コントローラーに接続されているストレージデバイスのフィジカル/ロジカル表示は、画面右の **Utility**、または**Logical View**を押下することで切り替えることができます。Logical Viewでは、コントローラーに構成されている仮想ドライブを確認できます。

アイコン	解説
	メイン画面へ戻る
	前の頁へ戻る
	WebBIOS CU プログラムを終了する
	WebBIOS CUのバージョン情報、バスナンバー、デバイスナンバーを表示する

WebBISO CU 画面左から選べる機能には以下のものがあります

- ・ **Advanced Software Option:** コントローラーの標準構成には含まれない機能の使用が可能になります。

- ・ **Controller Selection:** Adapter Selection画面を表示し、別のSASアダプタを選択することができます。また、コントローラーと、接続されているデバイスに付いての情報の確認や、新たにコントローラーの構成を行うことができます。
- ・ **Controller Properties:** 現在選択されているSASコントローラーのプロパティーの確認ができます。
- ・ **Scan Device:** フィジカルドライブ、仮想ドライブのドライブステータス、または物理構成に変更が加えられていないか、再スキャンを行います。
- ・ **Drive:** Drive画面を表示します。ドライブのプロパティーの確認、他のタスクを実行することができます。
- ・ **Configuration Wizard:** コンフィグレーションウィザードを開始、新たにストレージ構成を行う、または構成の削除、追加を行うことができます。
- ・ **Logical View:** Physical ViewとLogical View画面を切り替えます。
- ・ **Event:** Event Information 画面からシステムイベントを確認できます。
- ・ **Exit:** WebBIOS CUを終了、またはシステムのブートを続行します。

5-2 ストレージの構成

以下の頁では、WebBIOS CU Configuration Wizardを使ったRAID アレイ、仮想ドライブの構成方法を解説します。



以下で紹介する構成のデフォルト設定は予告なく変更されることがありますが、機能そのものに影響はありません。

Configuration Wizardからの構成選択

以下のステップでConfiguration Wizardを起動し、構成のオプションとモードを選択します。

1. WebBIOSメイン画面のConfiguration Wizard を押下します。最初のConfiguration Wizard画面が下図のように表示されます。
2. 構成オプションを選択します。

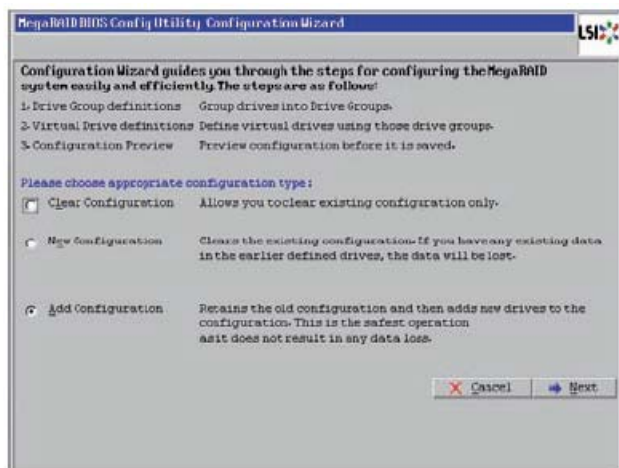


図5-3 Configuration Wizard画面



オプション1、または2を選択した場合、構成に含まれる全てのデータが削除されます。このオプションを選択する際は、必要なデータを先にバックアップしてください。

1. Clear Configuration: 既存の構成を消去します。
2. New Configuration: 既存の構成を消去し、新しい構成を作成します。
3. Add Configuration: 既存のストレージ構成はそのまま維持し、新たにドライブを追加します。（通常の場合データロスはありません）

3. **Next**を押下します。Clear Configuration、または New Configurationを選択している場合は、データロスの可能性がある旨のダイアログボックスが表示されます。

4. 次の画面で構成のモードを選択します。

- ・ **Manual Configuration:** 新しいストレージ構成すべての属性を設定することができます。
- ・ **Automatic Configuration:** 最適なRAID を自動的に構成します。Automatic Configurationを選択した場合、冗長化モードを選択することができます。
- ・ **Redundancy when possible:** データに冗長性を持たせ、最適化されたRAID を自動的に構成します。
- ・ **No Redundancy:** 自動的に非冗長化 RAID 0 を構成します。

5. Nextを押下し構成を続けます。

Automatic Configurationの使用

以下の頁では、冗長化を選択した場合、しなかった場合の自動構成について解説します。

1. WebBIOSで新たな構成を表示し、構成の内容を確認します。内容に問題がなければ "Accept"を押下します。内容に変更がある場合は"Back"を押下します。

- ・ **RAID 0:** Automatic Configurationでの構成、No redundancyを選択した場合は、RAID 0が作成されます。
- ・ **RAID 1:** Automatic Configurationでの構成、Redundancy when possible を選択した場合かつ、2台のドライブが使用可能な場合は、RAID 1が作成されます。
- ・ **RAID 6:** Automatic Configurationでの構成、Redundancy when possible を選択した場合かつ、3台以上のドライブが使用可能な場合は、RAID 6が作成されます。

2. 構成を保存する場合は、"Yes"を選択します。

3. 新たに仮想ドライブをイニシャライズする場合は、"Yes"を選択します。
WebBIOSが CU が仮想ドライブのイニシャライズをバックグラウンドで実行します。

Manual Configurationの使用

Manual Configurationを選択し、“Next”を押下します。Drive Group Definition 画面が表示されます。この画面からドライブを選択し、ドライブグループを作成します。

1. 複数ドライブを選択する場合は、<Ctrl>キーを押したまま左側のドライブパネルに表示されるドライブを選びます。
2. 右側のドライブグループパネルで提案されているドライブのグループ構成にドライブを移動するために Add To Arrayを押下します。
3. 必要な省電源モードを選択します。省電源モードには、Max、Max without catch、Auto、None、Controller definedがあります。設定を変更する場合は、“Reclaim” ボタンを押します。

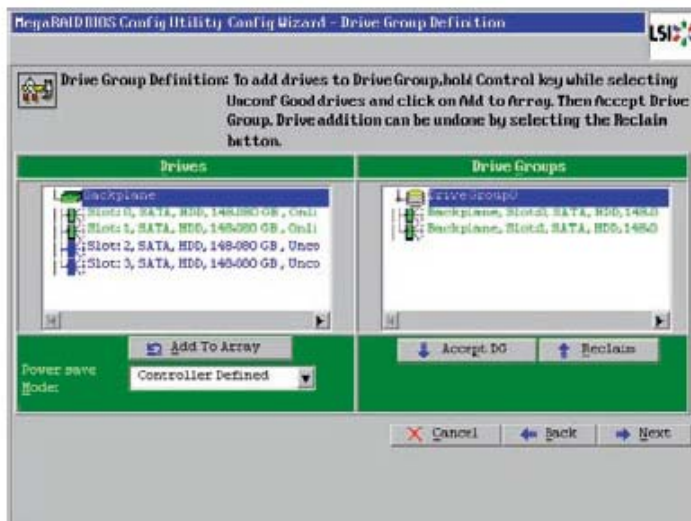


図5-4 Drive Group Definition 画面

4. ドライブグループに必要なドライブの選択が終了したら、“Accept DG”を押下します。
5. “Next”を押下すると、Span Definition 画面が表示されます。ドライブグループを選択し、Add To SPANを押下します。
6. スパニング終了後、Nextで続行します。表示されるVirtual Drive Definition 画面から、RAIDレベル、ストライプサイズ、リードポリシー、新しい仮想ドライブの属性を選択します。

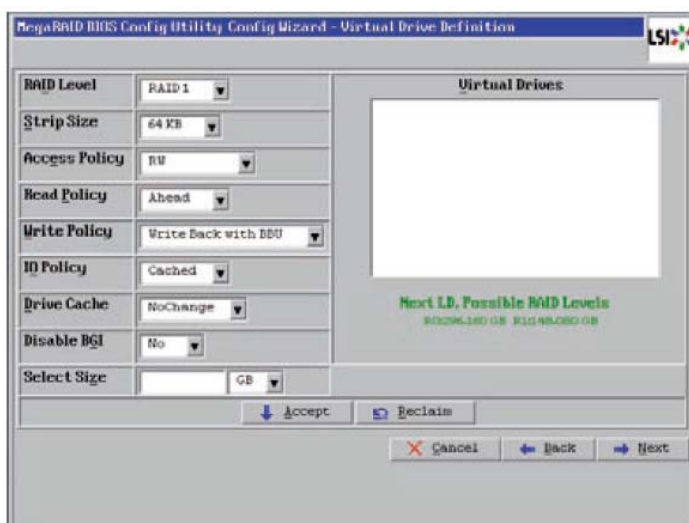


図5-5 Virtual Drive Definition 画面

7. 仮想ドライブのオプションを必要に応じて変更します。

以下では、仮想ドライブのオプションについて解説しています。

- ・ **RAID Level:** ドロップダウンメニューに、仮想ドライブに使用可能なRAID レベルを表示しています。(RAID 0/1/10/5/50/6/60)
- ・ **Strip Size:** 各ディスクのRAID構成に使用するライトサイズを定義します。64KB (デフォルトサイズ) から最大1024KBまでの選択が可能です。大きなストライプサイズは、リード性能が向上します。使用するアプリケーションがランダムリードをする場合は、小さいサイズを設定します。
- ・ **Access Policy:** 仮想ドライブのデータアクセスタイプを決定します。
 - ◆ **RW:** リード/ライトを許可する。(デフォルト)
 - ◆ **Read Only:** リードのみ許可します。
 - ◆ **Blocked:** アクセスを拒否します。
- ・ **Read Policy:** 仮想ドライブのリードポリシーを決定します。
 - ◆ **Normal:** リードアヘッドを許可しない。
 - ◆ **Ahead:** リードアヘッドを許可します。(デフォルト) シーケンシャルデータで、リードの高速化に寄与します。
- ・ **Write Policy:** 仮想ドライブのライトポリシーを決定します。
 - ◆ **Write Through:** ライトスルーモードでは、コントローラーはホストへのデータ転送完了信号を送信する時、ドライブサブシステムがトランザクション上の全てのデータを受けています。(OS専用ドライブ推奨)
 - ◆ **Always Write Back:** このライトバックモードでは、コントローラーはホストへのデータ転送完了信号を送信する時、コントローラーキャッシュがトランザクション上の全てのデータを受けています。標準推奨モードです。
 - ◆ **Write Back with BBU:** このライトバックモードでは、コントローラーはホストへのデータ転送完了信号を送信する時、コントローラーキャッシュがトランザクション上の全てのデータを受けています。この設定には、BBU (バッテリーバックアップユニット) が必要です。
- ・ **IO Policy:** IOポリシーは特定仮想ドライブのリードに適用されます。リードアヘッドキャッシュには影響しません。

- ◆**Direct:** ダイレクトI/Oモードでは、全てのリードはキャッシュメモリのバッファから行われません。データは、キャッシュとホストに一齐に転送されます。同じデータブロックが再度読み取られる場合、それはキャッシュメモリからリードされています。
 - ◆**Cached:** キャッシュI/O モードでは全てのリードはキャッシュメモリのバッファから行われます。このモードがデフォルト設定です。
- ・ **Drive Cached:** ドライブキャッシュポリシーを選択します。
- ◆**NO Change:** 現在のドライブキャッシュポリシーを変更せず、そのまま適応します。デフォルト設定です。
 - ◆**Enable:** ドライブキャッシュを使用します。
 - ◆**Disable:** ドライブキャッシュを使用しません。
- ・ **Disable BGI:** バックグラウンドイニシャライズステータスを選択します。
- ◆**NO:** バックグラウンドイニシャライズを行います。新たに構成が行われた場合、WebBIOSで他の構成を行っているバックグラウンドでイニシャライズが行われます。
 - ◆**Yes:** バックグラウンドイニシャライズを行いません。
8. 仮想ドライブの設定変更を許可する場合は、“Accept”を押下します。設定画面に戻る場合は”Reclaim”を押下します。
9. Yesを選択し、ライトのポリシーを設定します。
10. 仮想ドライブの設定変更完了後”Next”を押下します。構成のプレビュー画面が表示されます。
11. 構成情報を確認します。
12. 仮想ドライブの構成に問題がなければ”Accept”を押下し設定を保存します。設定画面に戻り変更を加える場合は”Back”を押下します。
13. 構成を保存する場合はプロンプト上の”Yes”を押下します。
14. “Yes”を押下しイニシャライズをスタートします。

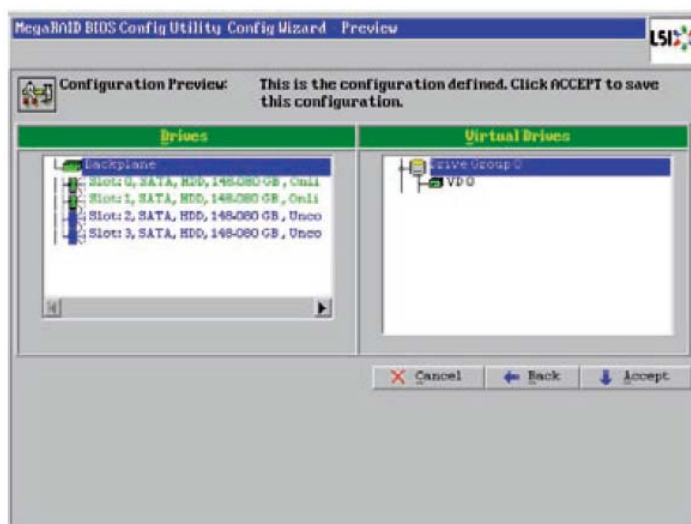


図5-6 Preview画面